

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

諫早干拓堤防

開門すれば町に活気が戻る

諫早で町に活気なくなつた・小長井

タイラギ17年連続休漁

小長井町漁民意見陳述(2月8日・長崎地裁)2月3日午後2時から長崎地方裁判所大法廷において「よみがえれ！有明海・小長井大浦漁業再生事件の口頭弁論が開かれ、長崎県諫早市の小長井町漁協の漁業者中村則之(69)が意見を述べた。諫早干拓工事着工前は小長井漁協もタイラギの潜り船が次々漁港



を出て行き、町は活気にあふれていました。しかし、工事着工後、小長井漁協ではタイラギは17年連続して休漁です。漁業だけでは生活ができません。生活が生活していきなりました。私、諫早湾干拓事業の仕事で生活していきなりました。人夫や石を運ぶ仕事をしようになりました。そして、潮受堤防締切り後の平成12年頃、私は、主として使用していた漁船を売りました。現在ではアサリ養殖をしています。

しかし、潮受堤防締切り後、夏に赤潮が発生するようになり、アサリが死んでしまふ夏を越せなくなつてしまふました。昨年は、赤潮で二つある漁場がほぼ全滅しました。弟のアサリ漁場も全滅しました。

タイラギが捕れなくなり、アサリも干拓事業がはじまる前はなかった赤潮に左右されととても不安定です。また、北部排水門から一方的に一気に大量に流れ出る調整池の汚い水は、アサリの漁場をダメにします。

漁場改善には開門しかない

これらの悪状況を改善するためには開門しかありません。私が言う開門は、海水を中に入れて、海水を出し入れることです。そうすれば、きれいな水が海に流れて本来の姿を取り戻します。最近、私達にとって、

とても嬉しいことがありました。それは、諫早湾内の瑞穂漁協が開門の決議をしたことです。やはり漁業者は皆気持ちと同じだと思えました。開門すれば、町に活気に戻ります。開門しても農業と両立します。

ノリ色落ち深刻 佐賀県知事、有明海視察

【朝日2月3日】有明海で収穫のピークを迎えている養殖冷凍網ノリの色落ちが深刻になっていく問題で、古川康知事は2日、佐賀市沖の漁場を視察した。

県有明海漁協のパトロール船で現場海域を見て回った。まず、ノリを育てる栄養塩が豊富な河口近くの地区で黒々としたノリを確認。次いで、栄養塩不足で色落ちしている沖合に移動し、茶色くなったノリを引き上げて観察。漁業者がノリを製品に加工作している協業施設も見学した。

視察を終えた知事は取材に「私が就任してから、こういう色のノリは見たことがなく、ショックを受けた。漁業者への公的融資の返済猶予など、生活支援策も考えなければ」と話した。

1日の県の調査では、河口近くを除いて、県内の漁場の栄養塩の濃度指数は3.0・5となっており、養殖に必要とされる7を大きく下

回っている。色落ちも全漁場に広がっている。5となっており、養殖に必要とされる7を大きく下回っている。色落ちも全漁場に広がっている。



網を全て撤去した漁業者

長崎県は話し合いを

【毎日2月3日】「報道各社におかれましては、適切な報道を行って頂きますようお願いいたします」国営諫早湾干拓事業(諫干)を巡り、1月7日、赤潮などでノリ養殖ができないとして、漁民が抗議行動した際、県庁が公表した文書の末尾には「こう書かれていた。余計な文言だったと思う。漁民は赤潮発生が諫干調整池から排出される淡水などが原因だと訴えているが、県は因果関係はないと反論。「要請行動は甚だ遺憾」とした。しかし、遺憾だから、報道各社にまで「適切な報道を」と要望するのは、間違いだ。県と漁民の双方に言い分があるなら、話し合いを深めればいい。自らの言い分を強く押し出そうとすれば、県と漁民との間の亀裂が深まるばかりではないだろうか。